

2017(平成29)年10月1日発行



2017(平成29)年 学園創立110周年、大学設立50周年 さらなる人材育成を目指し、記念建設事業を推進します

次なる半世紀 さらに理想を追求

本学園は、2017(平成29)年に創立110周年を迎えるとともに、1967(昭和42)年、新しい工業大学の理念の下に開学した日本工業大学も、理想の工業教育を追求し、半世紀を歩んでまいりました。

高度成長期、日本は工業技術の向上に努めていきましたが、工学部教育は理論偏重で、現場技術の主たる担い手は工業高校出身者でした。第三代理事長となる津田宗英は、理事時代に欧米の工業教育機関を視察する中から、理論と実践の融合を理想と掲げました。これは、より高度な技術の習得を願う工業高校生の思いと重なり、日本工業大学の設立に至ったのです。

開学当時はロッカーを手作りし、空っ風



理事長
柳澤 章

の吹きすさぶキャンパスに少しずつ緑を増やし、次々と研究設備、実験装置、実習施設の充実・刷新を図り、われらが学府はものづくりの拠点として、大いなる発展を遂げてきました。そして優れた人材を豊富に輩出、日本国内の産業界の成長とアジアをはじめ海外の技術革新に多大な貢献をしてきました。

大学は、現在、50周年記念建設事業を進めさらなる発展をめざしています。昨年5月に着工した「ダイニングホール」学生クラブ棟は、すでに完工しており、学園生活をより豊かにするための厚生施設として学生諸君の好評をいただいています。また、引き続き4月からは、2018(平成30)年12月の完

工を目前に、次代の工学教育を展開する新たな拠点として、7階建ての「多目的講義棟」を建設しています。卒業生の皆様にとって思い出が刻まれた場所は、「新され後輩たちの新たな青春の舞台となっていくでしょう。あわせて、大学50年史を編纂すべく、取り組みを進めているところです。これまで学園史は刊行してききましたが、大学史は初めての試みです。かつてない理想を掲げたユニークな大学の誕生と、その足取りが綴られます。ご期待ください。

社会と産業構造がダイナミックに変容を続ける中、本学が建学の精神に謳う、「真理の探求に努めるとともに、工学理論を現場の技術に直結しうる能力」は、豊かな人間社会をつくりだすために、今日において、ますます価値を高めています。この理念を、次なる半世紀においてさらに力強く形づけるべく、日本工大キャンパスの一層の充実のため、皆様の絶大なるご協力を賜りたく、なにとぞお願い申し上げます。

大学設立50周年 新たな学びの場を

日本工業大学は、建学以来、工業高校生を受け入れ、より高度な技術を身につけ社会に貢献したいという彼らの熱い想いに答えるべく、「実工学教育」の理念のもと独自の教育を推進してまいりました。その成果は、卒業生が様々な職場で活躍し、我が国の産業の発展を支えてきたという事実が物語っています。また、本学出身の多くの教員が、全国の工業高校や中学の技術科教育においても多大な貢献をしてきたことも特筆すべき点です。

私立大学の四割以上が定員割れという状況の中、本学は、この春も定員を超える入学生を迎えることができました。これもひとえに、日頃から本学をご支援いただいている関係者の皆様のお蔭だと思っております。あらため



学長
成田 健一

て深く感謝いたします。

しかしながら、50周年を迎えようとする今、本学を取り巻く状況は劇的に変化しつつあります。2005(平成17)年には80%を超えていた入学者に占める工業高校生の比率は、2014(平成26)年に初めて50%を割り、この春の入学生では42%となっています。また、学生の出身地の分布も関東一都六県で85%を超え、八割近い学生が自宅からの通学者です。このような変化を踏まえ、工業高校生が安心して学べる大学、実験実習を重視した体験学習の充実といった「よき伝統」を継承しつつも、新しい時代の「実工学教育」に向けた変革にも積極的に取り組んでいます。指示待ちのマニピュル人間ではなく、現場で創意工

夫でできる技術者、生涯学び続ける技術者を育成することを旨として、文章能力トレーニングなどの初年次教育をはじめ、学生の「学びのスイッチ」を入れる様々な環境づくりに注力しています。記念建設事業の「新講義棟」は、まさにそのような学びの中心となる施設です。

本学の何事にも真面目に取り組む学生気質は、開学以来変わらぬ社会に誇れる校風です。しかし、それに加え、自らの技術の意義を俯瞰的に見つめるためには、専門性を超えて他分野の人間とコミュニケーションする力も重要です。新講義棟にはスチューデントプラザなど、学生たちが自由に語り合えるオープンスペースや、チームで課題に取り組むためのゼミ室などが多数用意される予定です。

これからも、「実工学教育」をさらに深化させ、技術で価値を創造できる人材を育成し、社会の期待に応える大学であり続けたいと思っております。ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

実工学教育110年の歩み

- 1907(明治40)年 東京工科大学設立認可
- 1967(昭和42)年 日本工業大学開学「機械工学科、電気工学科、建築学科」
- 1975(昭和50)年 システム工学科設置
- 1982(昭和57)年 大学院工学研究科修士課程設置「機械工学専攻、建築学専攻」
- 1987(昭和62)年 大学院工学研究科修士課程(後期)設置「電気工学専攻」
- 1993(平成5)年 大学院工学研究科修士課程設置「システム工学専攻」、留学生別科日本語研修課程設置
- 1995(平成7)年 情報工学科設置、大学院工学研究科博士課程(後期)設置「システム工学専攻」
- 1999(平成11)年 大学院工学研究科修士課程設置「電気工学専攻」
- 2001(平成13)年 大学院工学研究科博士課程(後期)設置「情報工学専攻」、ISO14001の認証を取得
- 2005(平成17)年 大学院技術経営研究科(専門職大学院)技術経営専攻を東京・神田神保町に設置
- 2007(平成19)年 学園創立100周年
- 2009(平成21)年 ものづくり環境学科、生活環境デザイン学科設置、システム工学科を創設システム工学科に名称変更
- 2013(平成25)年 大学院工学研究科博士課程(前期)を5専攻から4専攻に改組
- 2018(平成30)年 基幹工学部「機械工学科、電気電子通信工学科、応用化学科」、先進工学部「ロボティクス学科、情報メディア工学科」、建築学部「建築学科」に改編



開学2年目の宮代キャンパス (1969年)



東京工科大学校舎 (1914年)



現在の宮代キャンパス (2017年)



学園創立百周年記念式典 (2007年)

宮代キャンパス 記念建設事業

記念建設事業のうち宮代キャンパス事業では、3施設の新設と周辺環境の整備を行います。

■多目的講義棟

新時代に対応した教育の充実を図るため、多目的な機能を備えた7階建ての講義棟を建設中です。2018(平成30)年12月竣工予定。

学生参加のアクティ

ブ・ラーニング(能動的学修)スペース、少

人数から大人数まで収容可能な各種教室や多目的スペースのほか、学修支援などの機能を持つ各種センターも設置されます。

■ダイニングホール

メインダイニング(760席)、ミーティングエリア(186席)、スタディカフェ(55席)の3エリアで構成され、ランチ時間帯には学生1000人の同時利用が可能です。配置の変更でイベント利用にも対応できます。2017(平成29)年3月竣工。

■学生クラブ棟

41の部室、4つの会議室、男女シャワー室などを備えています。地下雨水貯留槽により、浸水対策にも配慮しています。2017(平成29)年3月竣工。



宮代キャンパス事業全体俯瞰(イメージ)



宮代キャンパス事業建設計画

多目的講義棟

工事予定：2017(平成29)年8月着工～2018(平成30)年12月竣工



1階：スチューデントプラザ



1階：300人教室(通常時)



1階：300人教室(建具開放時)



外観

※画像は完成イメージ(CG)です。

ダイニングホール

2017(平成29)年3月竣工



外観



メインダイニング



ミーティングエリア



スタディカフェ



7階：多目的スペース

学生クラブ棟

2017(平成29)年3月竣工



外観

記念建設事業のさらなる充実発展のため、ご支援ご協力をお願いいたします

宮代キャンパス事業 募金の概要

- 募金目的:多目的講義棟建設、ダイニングホール・学生クラブ棟建設
- 募集期間:2015(平成27)年度～2019(平成31)年度
- 目標額 :8億円
- 募集金額:個人1口1万円以上、法人・団体1口10万円以上
- ※記念建設事業としては「宮代キャンパス事業」のほか、「駒場キャンパス事業」「赤倉山荘事業」を計画しています。
- ※記念建設事業、募金事業の詳細につきましては「募金趣意書」をご覧ください、下記の募金事業推進本部までお問い合わせください。

記念建設事業、募金事業に関する問合せ

■学校法人日本工業大学募金事業推進本部
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 Tel:03(3511)7592 Fax:03(3511)7596
E-mail:bokin@nit.ac.jp 大学WEBサイト:www.nit.ac.jp

募金のお申込みと払込み方法

- 払込用紙をご利用の場合
「募金趣意書」に同封の専用寄付金払込用紙に必要事項をご記入のうえ、銀行・ゆうちょ銀行及び郵便局窓口にてお振込ください。振込先は、みずほ銀行、三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、埼玉りそな銀行、ゆうちょ銀行からご選択いただけます。
- オンライン決済をご利用の場合
クレジットカード決済、主要コンビニエンスストアでの払込み、ネットバンキング(Pay-easy決済)をご利用いただけます。本学WEBサイト・トップページ右の「寄付金募集」のバナーから手続きページへお進みください。
- ※寄付金の払込み後は、原則としてご変更、お取り消し、ご返金はできません。
- ※本学園の記念事業施設建設資金へのご寄付は、税制上の優遇措置(寄付金控除)を受けることができます。
- ※寄付にご協力いただきました皆様の個人情報は募金業務のみに使用し、本学個人情報保護基本規程に基づき、適正な管理をおこないます。